

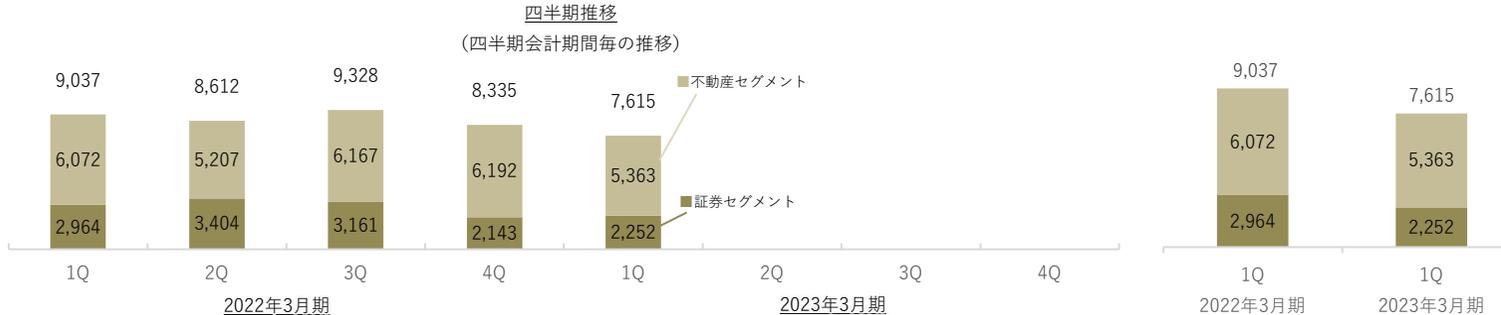
# 決算説明資料 2023年3月期第1四半期

2022年8月15日



# 1-①. 連結PL <当期・前期>

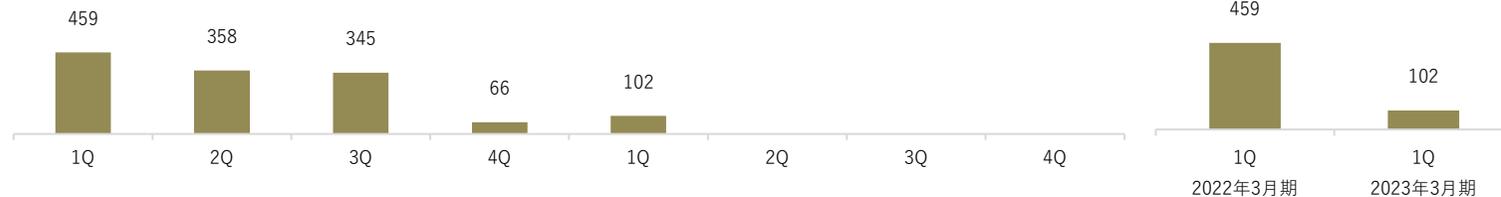
## ■ 営業収益 連結消去後（単位：百万円） （外部顧客に対するもの）



第1四半期

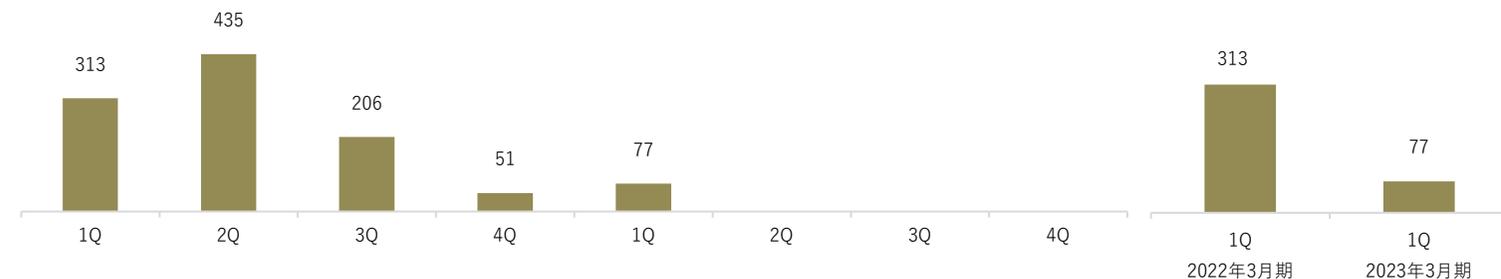
営業収益  
**15.7%減**  
（前年同期比）

## ■ 経常利益（単位：百万円）



経常利益  
**77.8%減**  
（前年同期比）

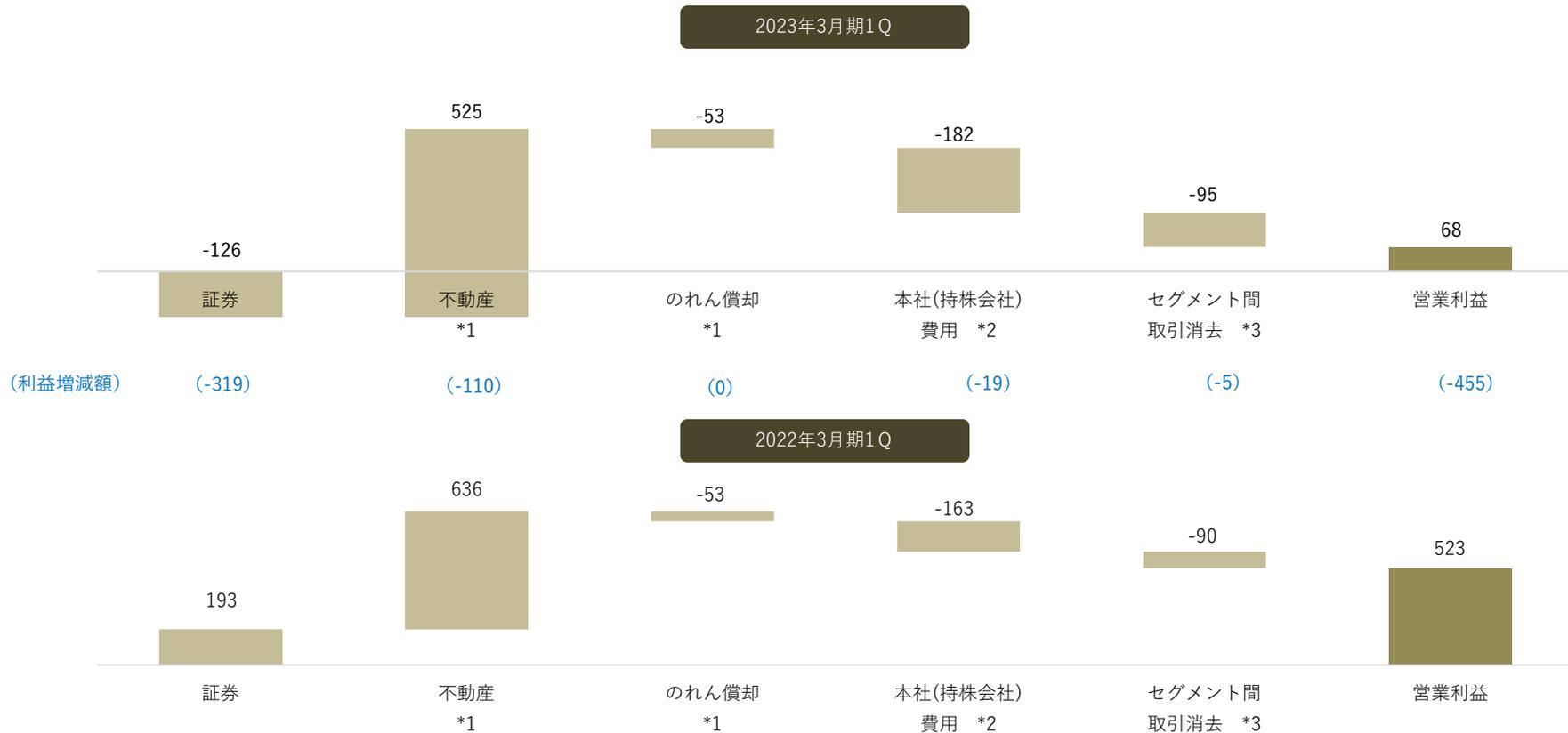
## ■ 親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益（単位：百万円）



親会社株主利益  
**75.5%減**  
（前年同期比）

## 1-②. セグメント情報 < 営業利益 >

- ▶ 連結営業利益は86.9%減の68百万円。
- ▶ 証券セグメントは、株式及び投資信託販売に伴う受入手数料が増加したものの、米国市況の下落を背景とした債券トレーディング損益の減少により減収、減益となりました。
- ▶ 不動産セグメントは中古マンションの買取再販ビジネスにおいて、販売戸数が減少し営業利益は19.0%減の525百万円（のれん償却額は含まない）。



\*1 不動産セグメントに含まれるのれん償却額は「のれん償却」として別掲表示

\*2 本社(持株会社)費用は上場維持・グループ管理などの経費

\*3 セグメント間取引は主に、当社及びあかつき証券との社債関連手数料の消去

## 2. 連結BS

- ▶ 総資産は2,857百万円増加
  - 販売用不動産+1,899百万円、預託金+1,498百万円
- ▶ 負債は3,065百万円増加
  - 預り金+2,794百万円、短期借入金+715百万円、信用取引借入金△547百万円
- ▶ 純資産は208百万円減少
  - 利益剰余金△211百万円

	2022年 3月31日	2022年 6月30日	増減
流動資産	57,401	60,133	+2,732
現預金	13,359	12,265	△1,094
預託金	13,182	14,680	+1,498
販売用不動産	25,100	26,999	+1,899
固定資産	6,782	6,907	+125
のれん	1,345	1,291	△53
投資有価証券	3,170	3,196	+26
総資産	64,183	67,040	+2,857

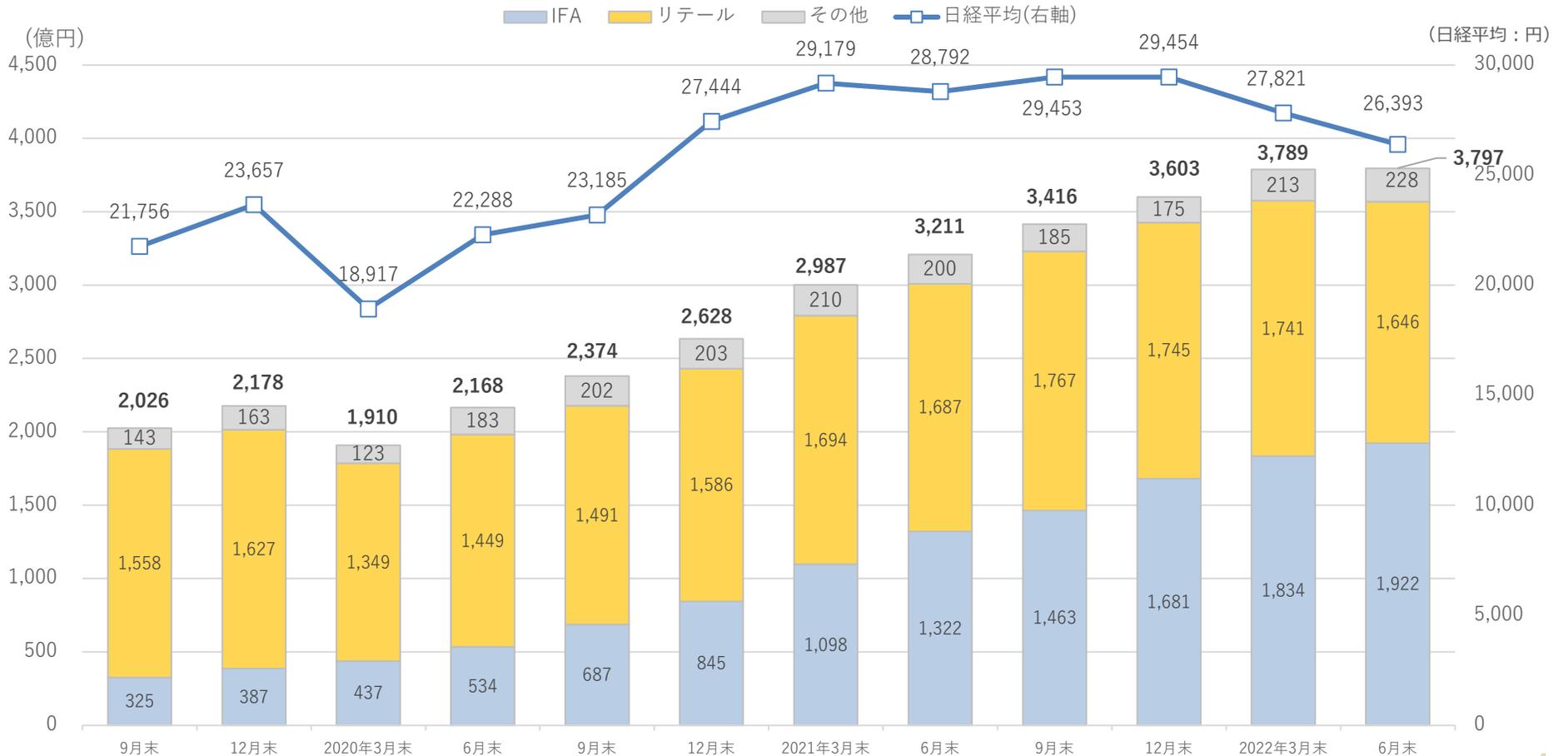
	2022年 3月31日	2022年 6月30日	増減
流動負債	38,428	41,030	+2,601
預り金	12,631	15,426	+2,794
短期社債	7,000	7,000	0
短期借入金*	13,404	13,984	+579
固定負債	10,959	11,422	+463
純資産	14,772	14,563	△208
株主資本	14,077	13,865	△211
負債・純資産	64,183	67,040	+2,857

\* 短期借入金と1年内返済予定の長期借入金の合計

### 3-①. 証券セグメント <あかつき証券・ジャパンウェルスアドバイザーズ・トレードサイエンス>

▶ 金融商品仲介（IFA）ビジネスの拡大に伴い、2022年6月末の預り資産残高は3,797億円、うちIFA部門は1,922億円と増加

預り資産の四半期推移



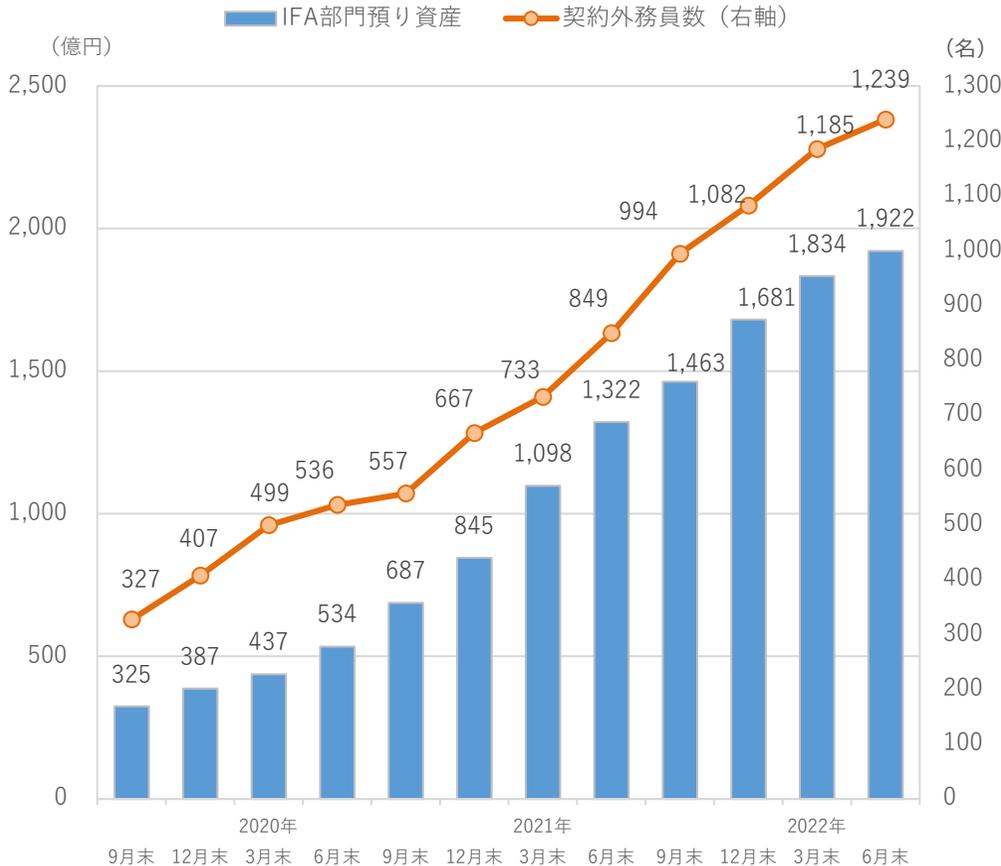
注) 預り資産残高は、あかつき証券の預り資産残高と、ジャパンウェルスアドバイザーズの提携金融機関における管理資産残高の合計となっています。

IFA法人であるジャパンウェルスアドバイザーズの預り資産の一部（351億円）をリテール部門に移管したため、内訳数値について遡及修正しております。

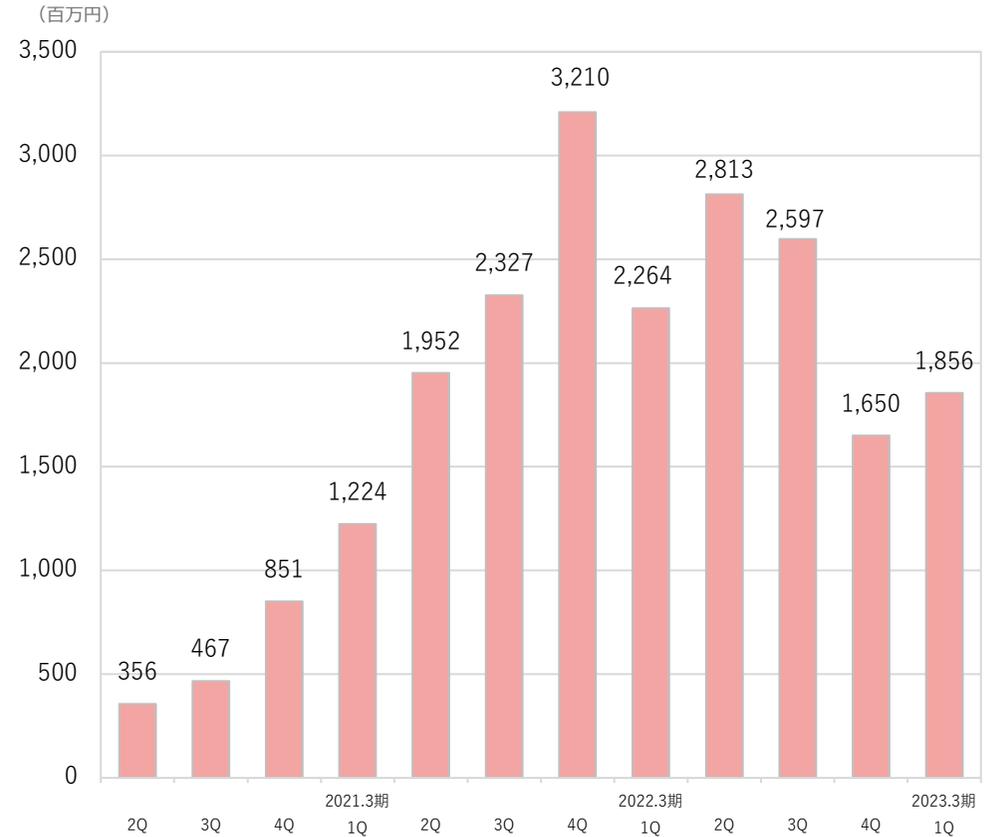
### 3-①. 証券セグメント <あかつき証券・ジャパンウェルスアドバイザーズ・トレードサイエンス>

- ▶ IFA部門の預り資産は1,922億円、契約仲介業者外務員数は1,239人に拡大
- ▶ IFA部門の営業収益は当四半期（2022年4～6月）で1,856百万円

IFA部門の預り資産残高・契約外務員数の推移



IFA部門の営業収益の推移



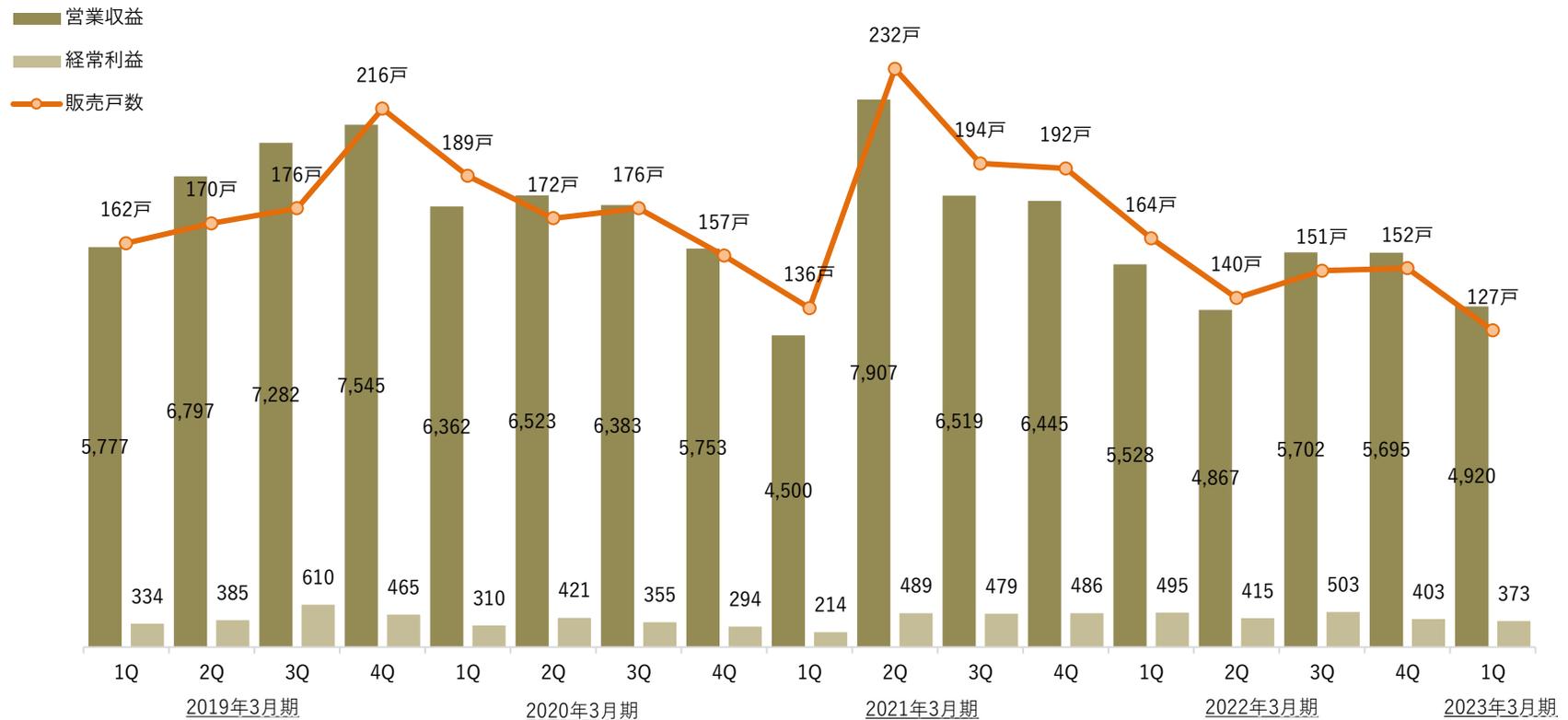
注) 預り資産残高は、あかつき証券の預り資産残高と、ジャパンウェルスアドバイザーズの提携金融機関における管理資産残高の合計となっています。

IFA法人であるジャパンウェルスアドバイザーズの預り資産の一部（351億円）をリテール部門に移管したため、IFA部門の預り資産残高と営業収益について遡及修正しております。

### 3-②. 不動産セグメント <マイプレイス>

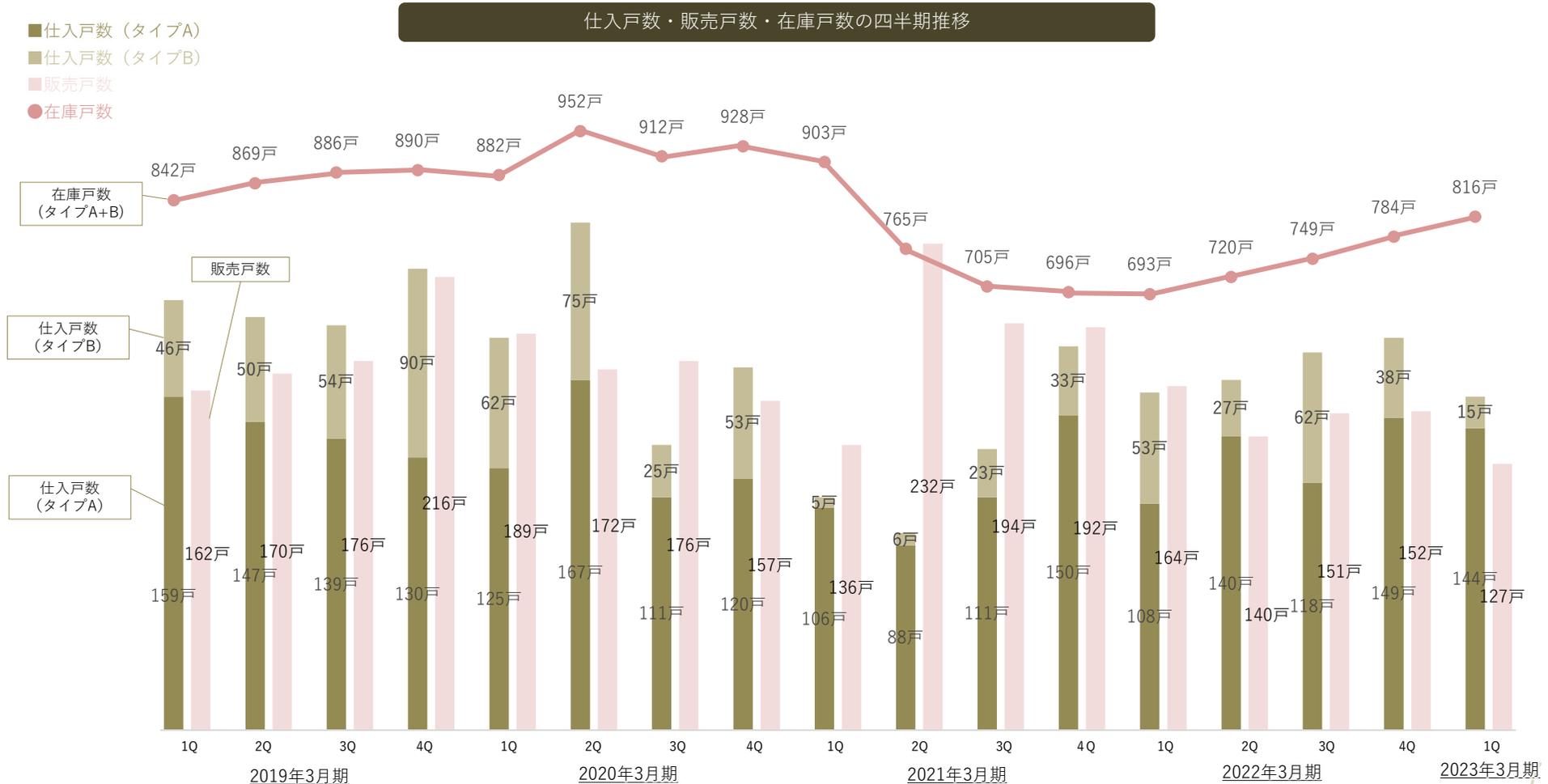
▶ 中古マンションの再販は、首都圏の堅調なマーケット環境のもと、3.7億円の経常利益を計上

営業収益・経常利益・販売戸数の四半期推移



### 3-②. 不動産セグメント <マイプレイス>

- ▶ 当四半期の仕入戸数は、タイプA144戸・タイプB15戸
- ▶ 販売戸数は127戸



### 3-③. 不動産セグメント <EWアセットマネジメント>

▶ 2022年5月、熊本県熊本市にて高齢者施設が竣工。これにより稼働中施設は3件、開発中施設2件は8月に竣工予定。

	開発用地取得	開発	竣工	施設売却
京都PJ (京都府京都市)	出資		2022/8 竣工予定	
西宮PJ (兵庫県西宮市)	出資		2022/8 竣工予定	
熊本PJ (熊本県熊本市西区)	出資		2022/5 竣工	
横須賀PJ② (神奈川県横須賀市)	出資			
湘南佐島PJ① (神奈川県横須賀市)	出資			2020/1 売却
川越PJ (埼玉県川越市)	出資			2019/12 売却
神戸PJ (兵庫県神戸市)	出資			2019/1 売却
江戸川PJ (東京都江戸川区)	出資			2019/1 売却
枚方PJ② (大阪府枚方市) *1			出資	
枚方PJ① (大阪府枚方市) *1			出資	2020/1 売却

\*1：稼働中施設を取得したため当社グループによる開発は行っていません。

## 4. 2023年3月期業績予想

証券関連事業においては株式市況等の影響を大きく受ける点、高齢者施設開発事業（不動産関連事業）においては保有物件の売却成否により収益に大きな変動がある点などを踏まえ、信頼性の高い数値を的確に算出することが困難であるため、業績予想をレンジ形式にて開示致します。

### （証券関連事業）

米国の金融引き締めやウクライナ情勢並びに新型コロナウイルス感染症の状況など、経済情勢への懸念が継続する中、マーケット環境は不透明ですが、I F A 預り資産の増加ペースは継続するものとしており、預り資産増加に伴う増益を想定しております。マーケット環境の将来見込について、現状が継続する場合を業績予想のレンジの下限、好転する場合を上限として設定しております。

### （不動産関連事業）

中古マンション買取再販・リノベーション事業では、中古マンション成約件数・成約㎡単価は堅調に推移するものとしており、収益は前期と同水準を想定しております。

高齢者施設開発事業では、保有物件の一部売却を想定しております。当該売却物件数により、レンジの上限下限を設定しております。

	営業収益 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	税金等調整前 当期純利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する当期純利益 (百万円)
<b>2023年3月期 業績予想</b>	<b>39,500~44,400</b>	<b>1,900~3,000</b>	<b>1,800~2,800</b>	<b>1,800~2,800</b>	<b>1,000~1,700</b>
2022年3月期 実績	35,312	1,568	1,229	1,421	1,008
増減率 (%)	11.9~25.7	21.2~91.3	46.5~127.8	26.7~97.0	△0.8~68.7

注) 税金等調整前当期純利益は、連結業績予想として開示していません。本決算説明資料においては参考値として記載しています。

## 5. 配当予想

- ▶ 2023年3月期は通期で 19.0円（中間配当9.5円、期末配当9.5円、DOE4.0～4.1%）を予定します。
- ▶ 2019年3月期より、財務の安定と事業資金の確保に支障をきたさない限りにおいて、DOE（純資産配当率）は少なくとも4%以上の水準を維持し、ROE（自己資本利益率）が4%を上回る場合には、その部分の利益についても株主還元の原因とし、その一部を追加の株主還元に充当する方針です。

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
中間配当	10.0円	10.0円	9.0円	8.5円	9.5円	<b>9.5円</b>
期末配当	10.0円	8.0円	11.0円	9.5円	8.5円	<b>9.5円</b>
年間配当	20.0円	18.0円	20.0円	18.0円	18.0円	<b>19.0円</b>
DOE (%)	3.9%	4.0%	4.8%	4.1%	4.0%	<b>4.0～4.1%</b>
ROE (%)	18.4%	8.9%	11.0%	10.5%	7.2%	<b>7.4～12.0%</b>
配当性向 (%)	21.5%	45.2%	43.1%	39.0%	55.0%	<b>34.1～57.9%</b>

注) 2023年3月期の配当・DOE・ROE・配当性向はいずれも現時点での予想値を記載しており、2023年3月までの業況により実際は異なる可能性があります  
 DOEは1株当たり年間配当を期首と期末の1株当たり連結純資産の平均値で除して算定  
 ROEは親会社株主利益を期首と期末の自己資本の平均値で除して算定  
 配当性向は1株当たり年間配当を1株当たり当期純利益で除して算定

#### 免責事項

本資料に記載されている予想・見通しは、現時点で入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る現時点における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

本資料に記載されたデータには、当社が信頼に足りかつ正確であると判断した公開情報の引用が含まれておりますが、当社がその内容の正確性・確実性を保証するものではありません。

本資料は、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資に際しては、投資家ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。